

情報公開内容

課題名：FDG-PET/CT 検査の大腸偶発腫瘍の検出における 80 分後期像の有用性の検討

研究の意義

FDG-PET/CT では大腸に生理的集積（大腸の動きによる正常な薬の集まり）が生じやすく、しばしば腫瘍性病変との鑑別が問題となります。両者を区別するためには後期像（時間をあけた再撮像）が有用と言われており、撮像のタイミングとしては 80 分後と 120 分後があります。従来は 120 分後が選択されることが多かったのですが、もし 80 分後でよいのであれば、患者さんの負担の軽減になり、メリットが大きいものと考えられます。

研究の目的

FDG-PET/CT 検査で偶然に大腸腫瘍の可能性のある集積が発見された場合、生理的集積と腫瘍性病変を区別するために、後期像(80 分後)が後期像(120 分後)の代替となり得るかを検証すること。

研究の方法

本研究は 2012 年 5 月～2012 年 12 月末までの間に本院放射線診断科において、悪性腫瘍の診断目的で FDG-PET/CT 検査を施行され、偶然に大腸腫瘍の可能性のある集積が発見された患者さんを対象とします。早期像(60 分後)、後期像(80 分後)、後期像(120 分後)の 3 相相がすべて撮像されていることが必要条件です。

早期像(60 分後)と後期像(80 分後)の対比、早期像(60 分後)と後期像(120 分後)の対比にて、各々、生理的集積もしくは腫瘍性病変(疑)の判定を行い、判定結果に違いがでるかどうかを検討します。

本研究は大学病院で過去に撮像された PET/CT 検査の画像を使った研究です。診療録等既存の情報を調査する研究のため、対象者に新たな負担はありません。調査項目は、患者さんの性別、年齢、画像診断、大腸内視鏡所見、病理診断です。

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシーの保護に十分留意し、誰の情報か分からないように匿名化して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

不明な点がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

問い合わせ先：

担当者所属：広島大学病院 放射線診断科

職名：医科診療医

氏名：古本大典（研究責任者）

連絡先電話番号：082-257-5257